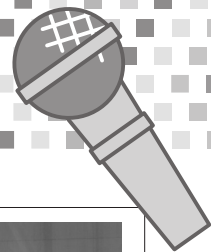


新規採用教員へのインタビュー



西田 彩音 にしだ あやね
鏡野町立鶴喜小学校 教諭
(令和5年度採用)

自己紹介

令和4年度実施の教員採用候補者選考試験に合格し、令和5年4月から鶴喜小学校に赴任しました。2年生担任を務めています。

Q 鶴喜小学校はどんな学校ですか？

全校児童は94名の小学校です。担任以外の学年の児童でも、顔と名前が一致して声をかけることができます。私は2年生11名の担任をしています。授業では、一人一人の考えをしつかり取り上げ、心を心がけ、授業以外にも、今日一回も話さなかったなという子どもがいるといったことはありません。

Q 教員を目指すようになったきっかけを教えてください。

私が小学校1年生のときの担任の先生との出会いから、ずっと教員になりたいという思いを持っていました。その先生は元気いっぱいの明るい方で、授業も楽しかったのを今でも覚えています。先生

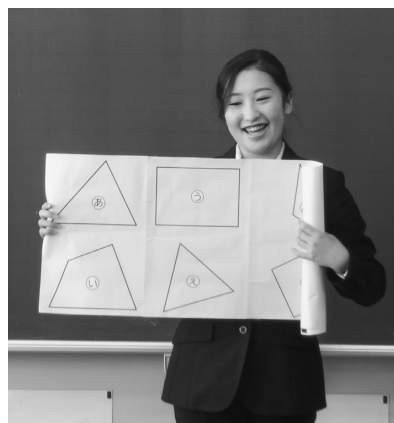
って素敵だな、この人みたいになりたいなという思いから、将来の夢を聞かれると「学校の先生」と言っていました。周りの先生に恵まれ、ずっと楽しく学校に通うことができていたので、その思いが変わることはありませんでした。

もともと岡山県出身ではないのですが、岡山県内の大学に進学しました。大学3年生のときには、岡山県教委が主催する「教師への道」研修を受講しました。そこで、岡山県の授業のスタイルやこういった教育に力を入れているかということを知り、岡山県で教員をしたいと思うようになりました。

Q 採用試験に向けて、どのように取り組まれましたか？

大学に採用試験突破を目指すグループがあり、私もそこに所属して試験対策に取り組むようになっていました。一人ではここまでやりきれなかったと思うので、参加してよかったと思っています。面接や模擬授業についても、数多く練習を重ねることができました。合格したい、先生になりたいという思いをもっている人たちの中で努

力を積み重ねることができ、良い経験をするのができたと思っています。



Q 1年間を振り返って、いかがでしたか？

1年間を振り返ってみると、あつという間だったなと思います。途中で、子どもや保護者との関係づくりにおいて悩むことがあり、このまま続けていけるかと考え込む時期がありました。しかし、周りの先生に相談して助言をいただいたり、日々の子どもの笑顔に救われることがあり、やはりこの仕事を選んでよかったな今では思っています。

子どもとの関わりにおいて、表情や態度だけで子どもに伝わると思っていた例えば感謝の気持ち、大切にしているよというメッセージが、子どもには伝わっておらず、関係づくりがうまくいかないこと

に気付きました。「嬉しいよ」「ありがとう」ということをちゃんと言葉にして伝えていくことが、子どもと心を通わせるためにとても大事なことのだと、身をもって感じました。この1年の大きな気付きだったと思っています。

Q 子どもとの関わりで大切にしていることを教えてください。

先ほどの経験から、他愛のない話をすることの大切さにも気付くことができました。例えば、「先生の昨日の晩ご飯は何だったでしょう？」という話をよくするように、子どもと一気に距離が縮まった感じがして、より毎日が充実するようになりました。自分自身の話をするのがこんなに子どもを引き付けることになると思ってもいませんでした。

子どものことを知ることも大切にしています。前の学年の担任の先生などに聞き、一人一人についてよく理解することで、適切な関わりができるようにしたいと思っています。また、初めのうちは余裕がなかったのですが、休み時間には子どもと一緒に遊ぶようにしています。授業以外の場面でも気持ちのつながりがないと、授業もうまくいかないと思っています。



Q 授業で大切にしていることはどんなことですか？

子どもが「楽しかった」と思える授業をつくりたいと思っています。学ぶこと、わかることが楽しいと思えるように、なるべく活動を入れることを意識しています。そのため、校内の先生方にお聞きすることはもちろん、違う学校の知り合いの先生や大学時代の先輩に相談することもあります。一人で考えこむよりは、いろいろな助言を聞きながら、子どもに合った発問や授業展開を考えるようにしています。子どもの「できた！わかった！」の瞬間が、やりがいを感じる時です。教材研究や相談をしていてよかったな、先生方に相談しておいてよかったなと思います。

国語科の「わたしはおねえさん」という題材で導入を工夫すると、単なる読み物としてではなく子どもが自分ごととして考え、学びが深まっていく感じがあり、手ごたえを感じたことが印象に残っています。

今は算数の九九を全員に定着するように頑張っています。今月（インタビューを実施した令和6年2月）は九月間にしようと思いをかけ、朝学習などあらゆる機会を使って定着を図っています。

Q 校務分掌ではどのようなことを担当していますか？

校務分掌は、人権教育や環境美化の担当をしています。

人権教育に関しては、人権週間に標語の掲示や集会の準備を子どもとしました。環境美化では、「クリーン大作戦」の際の掃除場所の割り振りなどを担当し、スムーズに活動が行えるように気を付けました。校務分掌の業務は、一人ですることはなく複数で担っているのですが、先輩教員に教えてもらいながら進めていくことができました。

Q 先生の仕事の進め方について教えてください。

帰る時間を決めて仕事に取りかかるようにしています。以前は仕事を全て放課後に詰め込んでしま

っていました。最近は短い休みの時間のうちにノートの点検をすませるなど、前倒しすることができています。放課後の時間を教材研究にあてていることが多いです。

周りの先生方も忙しくされている中、聞くことをためらうこともありました。そのままでは結果的に子どもの指導に影響することもあると思います。積極的に聞くように心がけています。初任者であるし、単学級の担任で担任の先生もいないので、この時期にこういったことをしておくとうい、ということがどうしてもわからないことがあります。年間の授業計画や成績処理など、そもそもの用語の意味がわからなかったり業務の見通しがもてなかったりする不安があるので、抱え込まずに聞くということを大切にしています。



Q 今後、目指す教員像について教えてください。

教員が学校で過ごす時間の中で一番多いのは授業であり、子どもにとっても同じです。授業で子どもを育てていく、伸ばしていける教員になりたいと思っています。教材研究、授業研究にしっかりと取り組み、授業力を高めていきたいです。

Q 最後に、教員を目指す人にメッセージをお願いします。

実際に教員になってみて、本当に素敵な仕事だなと思っています。子どもの成長を目の前で感じられ、人と人との関わりの中で喜びを感じられる日々の中で、充実した毎日を送ることができています。

また、学生時代までのいろいろな経験が教師になったときに生きてきます。私も、自分の経験を子どもたちに語ることで心がつながる経験をしたことがありました。どんなことでも、今やっていることに一生懸命取り組んでいくことで、将来教師になったときに子どもに伝えられることが増えるのかなと思います。

試験対策は大変で、苦しいこともあると思いますが、教師という職業にはそれを上回る喜びがあるので、ぜひがんばってほしいです。